

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	しんがくどう青葉		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		2026年 3月 6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日		2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月9日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者様より専門性について高い評価をいただいております。靴紐結びの練習など、日々の小さなお困りごとにも即座に個別プログラムを組んで対応する柔軟性があります。	聴覚過敏のあるお子様のためのサイレントボックス設置や、集団・個別・クールダウンなど目的に応じたお部屋の使い分けを徹底し、過ごしやすい環境を整えています。	学校卒業後の進路先への情報提供や、就学前の関係機関との情報共有をより密に行い、ライフステージの切れ目ない支援を強化します。
2	スタッフの共感的な姿勢に対し多くの肯定的なご意見をいただいております。「しんがくどうが大好き」と言っていたり、安心感のある居場所作りができています。	支援前後のミーティングによる情報共有や、客観的なアセスメントツールの活用、日々の記録の徹底により、スタッフの主観に頼らない質の高い療育を追求しています。	現在は学生ボランティアの受け入れ等に留まっているため、地域の児童館や他施設との直接的な交流機会をさらに模索します。
3	SNSや事業所通信を通じて日々の様子を定期的にお伝えしており、保護者様から「いつも楽しみに見ている」といった温かいお声をいただくなど、透明性の高い運営を行っています。	定期的な面談だけでなく、ペアレント・トレーニングを兼ねた保護者会を開催するなど、ご家族の悩みへの助言や、保護者様同士が交流できる場を提供しています。	保護者の意向を汲み取り、児童の将来を見据えた進路や移行に関する対話をより早い段階から進めていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	スタッフ・保護者共に、避難訓練の実施は認識しているものの、マニュアル自体の内容や詳細の把握に課題があります。	マニュアル等の重要書類が整備されているものの、日常的な訓練に重きを置くあまり、書類内容の読み合わせや周知が形骸化している可能性があります。	安全計画や各マニュアルを分かりやすく要約し、周知を行います。
2	身体の高い高学年児童が増えたことで、部屋によっては物理的な狭さを感じる場面が生じています。	他害や自傷のある児童が重なる日など、リスク管理の観点から現状の職員配置数に心理的な余裕が不足するケースがあります。	身体の高い児童が過ごしやすいよう、配置の工夫やスケジュール調整による人数の分散など、物理的な環境再整備を検討します。
3	PDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の参画について、一部で「進んでいる雰囲気がない」との認識があります。	日々の支援プログラム立案はチームで行っているが、運営全般や業務改善といった俯瞰的な議論に全職員が参加できていません。	スタッフが業務改善案を出しやすいよう、定期的なヒアリング機会を公式に設け、改善プロセスの進捗を共有することで参画意欲を高めます。